ATC 施設利用・共同開発研究 成果報告書

国立天文台先端技術センター センター長 野口卓 殿

下記のとおり施設利用の成果を報告します。

ふりがな: たかとうなるひさ ③所属機関,部局:

代表者氏名: 高遠徳尚 ハワイ観測所

研究課題名:PFS 部品の光学特性測定

利用期間: H28年 4月 1日 ~ H29年 3月31日

利用者リスト

高遠徳尚、鎌田有紀子

研究開発の成果 (ATC 施設利用との関連を具体的に記述してください。)

Prime Focus Spectrograph(PFS)に必要な光学特性を ATC と協力して進めている。今年度は、すばる望遠鏡で用いるドームフラット板の散乱特性の測定を行った。すばる望遠鏡に現在設置されているドームフラット板は、反射特性が低く、理想的なランバート散乱になっていない。よりよい特性を持つものに交換するため、BRDF を測定するための実験装置を組立て、3 種類の候補材料と現在使用中の材料、すばる望遠鏡建設時に候補に挙がった材料、Spectralon 製光学標準サンプル計 6 種類について検討した。測定装置には光源として ATC 所有の浜松ホトニクス社 L7810-02 を使用し、光学実験室の光学定盤の一部を使用した。また資料の分光反射率を測定するために ATC 所有の分光光度計(SolidSpec370, FTIR410)を使用した。

測定の結果、候補材料は3種類とも標準サンプルとほぼ同等のBRDF特性を持ち、現在のドームフラット板を置き換える候補になる材料であることを確認し、その中でも取扱いが用意なPermaflect94を第一候補として考えることとなった。測定結果はPFS内部レポートとしてまとめた。

施設利用が謝辞等に記された学術論文など(資料を添付してください。)

先端技術センターの利用設備・実験室等の利用した物品を具体的に記入してください。マシンショップへ依頼したリスト・利用した測定器・CAD等について記入してください。)

光学定盤

Xenon 光源 (浜松ホトニクス社 L7810-02)

分光光度計(SolidSpec370)

フーリエ変換赤外分光光度計 (FTIR410)

先端技術センターの施設への要望等ありましたら、記入してください。